

これからの

幸せを考えてみませんか

平成28年7月6日から毎週水曜日、4回にわたり、「人材養成講座 これからの幸せを考えてみませんか」を開催しました。多彩な講師の皆さんの経験に基づいたお話を通して、一人ひとりが「男女共同参画」についてあらためて考える時間になりました。

第1回

「これからの幸せを考えてみませんか」 ～男女共同参画社会に向けて～

まずはじめに俳句を紹介。

「誰が敷きし ハンカチベンチに 忘れあり」

ベンチにハンカチを敷いたのは女性と男性、どちらでしょう？と参加者の皆さんに問いかけました。結果は女性と答えた方が13名、男性と答えた方が6名。「ハンカチを敷くのはやはり女性だろう」「男性にもハンカチを敷く人はいる」等の意見が出ました。いろいろイメージが広がるのがいい俳句とのこと。

自身の教員時代の経験を交え、「自らの意思を持つ子どもを育てること」「社会の風潮や意識を変えていくこと」が大切と話しました。

最後に、「男女共同参画社会実現」のために大切なことは何かを参加者全員で考えました。



講師
松山市男女共同参画推進センター
館長
鎌田 サチ子

自立した
子どもを
育てること

若い方々の
意見の
お待たせ



第2回

「これからの女性の活躍について考えてみませんか」

女性活躍を妨げる4つの「壁」は

- ①（女性のことを）「採っていない」
- ②（女性のことを）「育てていない」
- ③（女性にとって）「続けたくない」「続けられない」
- ④（女性にとって）「昇進したいと思えない」

これらの根底には「長時間労働」×「性別役割分担意識」（男は仕事、女は家庭等）があると語られました。

～最後に参加の皆さんに向けて～

<女性に向けて>

まずは退職せず働き続けてほしい。

子どもを産み育てることは大変だが、夫や周囲の力を借りながら頑張ってもらいたい。

子育て中は職場に迷惑をかけるかもしれないが、今はできなくても、「いつかは支える立場になる」という気持ちで取り組んでほしい。

もし、管理職にと声がかかったときは断らないでほしい。

<リタイアした世代の方に向けて>

現役で働いている人を支えて見守ってほしい。今までの経験と知恵を活かし、生涯現役で活躍してほしい。

熱いメッセージをいただきました。



講師
厚生労働省
愛媛労働局 雇用環境・均等室
室長

藤田 恭子 さん

第3回

「これからの男性の生き方について考えてみませんか」

「会社員の場合、定年退職後どう生きるかが問われる。地域社会で役に立つ、自分の得意なことや生きがいを見つけよう」と語られました。

さらに、生きていく上で大切なことについて語られました。困ったときに他人を頼る「受援力」が重要となり、「誰かの役に立つこと」「誰かに助けを求めること」その両方ができる社会になることが大切とおっしゃいました。 (次ページへ続く)



講師
愛媛大学 社会連携推進機構
教授

前田 真 さん

マタニティマークを付けた妊婦さんに声を掛けたり、性的マイノリティに目を向けて暮らしやすい社会を考えたりするなど、他人の困りごとに気付いてほしい。まずは自分から動き始めることが大切。

何か特別なことをしなくても誰かの役に立つことはできる。例えば、妻が作ってくれるごはんを「おいしい」と伝えるだけでも妻にとっては自信や喜びにつながる。

人と人との距離感が近づき、互いに助け合える社会をつくろうと呼び掛けられました。

第4回

「男女共同参画社会に向けて」

～女性も男性も自分らしい生き方ができる社会へ～

WLB（ワーク・ライフ・バランス）支援に関してもかなり誤解があると指摘されました。

○WLB支援は、福祉施策ではなく、社員にとって基本的な「報酬」であり、時間生産性を高めるための取組。

○子育て支援や少子化対策のみが目的ではない。すべての社員のWLB支援が必要。

○ほどほどの働き方への転換ではない。メリハリのある効率的な働き方の実現がWLB支援実現のための必要条件。

○WLB支援はコストがかかるわけではない。コストを要する施策は少ない。

「女性活躍」とよく言われるが、女性ばかりが活躍しているのではない。さまざまな分野ですべての人が自分らしく活躍することを女性活躍というのではないか。

「男女共同参画社会の実現は、私たち自身にかかっている」と締めくくられました。



講師

松山東雲短期大学

教授

桐木 陽子 さん

アンケートより

男女共同参画について
理解が深まった

それぞれの分野の
専門家である
講師のお話が
参考になった

自分らしい生き方を
めざしていきたい
と思った